令和３年度　岐阜県現代陶芸美術館　美術品等収集委員会　議事要旨

日時	令和４年１月 15 日（土）14：00～15：45
場所	小会議室、プロジェクトルーム、展示室 11
出席者	○委員 伊藤嘉章　愛知県陶磁美術館総長、町田市立博物館館長 唐澤昌宏　国立工芸館館長 外舘和子　多摩美術大学教授、美術評論家 矢橋龍宜　矢橋ホールディングス代表取締役社長 ○事務局 石﨑泰之　館長　於久田秀孝　副館長兼総務部長 長瀬勇　課長補佐兼係長（総務担当）　寺井富之　主査（県民文化局文化伝承課） 小栗祥吾　学芸部長　岡田潔　課長補佐（学芸担当） 飛彈一成　課長補佐（学芸担当）　花井素子　係長（学芸担当） 守屋靖裕　主査（学芸担当）　山口敦子　主任（学芸担当） 芝涼香　主任（学芸担当）　林いづみ　主任（学芸担当）

議事内容および委員からの意見

於久田副館長　開始の挨拶／委員、事務局員紹介
石﨑館長　挨拶
小栗学芸部長　進行手順説明／調書に基づき提出作品、購入８点、寄贈 24 点の説明
＊プロジェクトルーム及び展示室 11 へ引率し、提出作品を実見しながら説明補足および質問に応対

委員からの意見（作品実見の最終意見）

○加藤土師萌（No. 1～5）＜購入作品＞　（No. 10 ～22）＜寄贈作品＞

伊藤委員　加藤土師萌という人がやっていた世界がかなり分かる、非常に貴重な一括の資料だ。
唐澤委員　個人の方が集められたからこその作域の広さをみせられるのではないか。購入の No. 2, 3 はとくに良い。

○中島晴美（No. 6）＜購入作品＞　（No. 23）＜寄贈作品＞

唐澤委員　地元を代表する作家である。初期作品は美術館に入っていないので、残していただけると嬉しい。
外舘委員　現在は磁器作家となっているが、陶土作品で若い時の勢いが感じられ、非常に貴重な資料になると思う。
矢橋委員　ショッキングな作品。このような作品は是非美術館で収蔵いただきたい。

○井上雅之（No.7）＜購入作品＞　（No. 24）＜寄贈作品＞

唐澤委員　今若い人でここまでの大きさのものを作る方もいない。いい時代のものを、しっかりと収蔵していただいたのではないか。
外舘委員　若い時から現代陶芸をひっぱってきた作家。現代陶芸の勢いをきちんと伝えられる作品が入ったのではないかと思う。

石﨑館長　今回ご覧いただいた購入、寄贈候補作品計 32 点について収蔵してよろしいか。
委員一同　よろしい。
石﨑館長　すべての作品についてご賛同いただきましたので、収集方針に基づきまして今回の候補作品を収蔵していこうと思っております。本日はありがとうございました。